



9月1日は防災の日

9月1日は、関東大震災が発生した日であり、昭和34年9月26日の伊勢湾台風（全半壊・流出家屋15万3,893戸、浸水家屋36万3,611戸、死者4,700人、行方不明者401人、負傷者3万8,917人という当時戦後最大の被害）が発生したことが契機となり、地震や風水害等に対する心構えなどを育成するため、防災の日が創設されました。また、昭和57年からは9月1日の防災の日を含む一週間を防災週間と定め、各関係機関が緊密な協力関係のもとに、防災思想普及のための行事や訓練も行っています。

20代の「知っている」人は半数以下

防災の日を「知っている」と答えた20代は半数以下という結果となり、年代が若くなるにつれて防災の日の意識が薄れていることが分かりました。この日を契機に防災意識を高めて、日頃から災害に備えましょう。 出典：日本赤十字（http://www.jrc.or.jp/press/180829_005405.html）

家具の置き方を工夫していますか？

- ・家具は壁に固定し、倒れないようにしましょう。
- ・寝室や子供部屋にはできるだけ家具を置かず、出入口の家具の向きや配置を工夫しましょう。
- ・手の届くところに懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備えましょう。



食料・飲料などの備蓄、十分ですか？

- 防災のためにと特別なものでなく、普段の生活の中で利用されている食品等を人数分備えましょう。
- ・飲料水 3日分（1人1日3リットルが目安）
 - ・非常食 3日分（アルファ米などのご飯、ビスケット、チョコ、乾パンなど）
 - ・トイレットペーパー、ティッシュペーパー、マッチ、ろうそく、カセットコンロなど
- ※大規模災害時には、「1週間分」の備蓄が望ましいとされています。

非常用持ち出しバッグの準備はできていますか？

- ・飲料水、食料品（カップ麺、缶詰、ビスケット、チョコレートなど）
 - ・貴重品（預金通帳、印鑑、現金、健康保険証など）
 - ・救急用品（ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など）
 - ・ヘルメット、防災ずきん、マスク、軍手
 - ・衣類、下着、毛布、タオル
 - ・洗面用具、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、携帯トイレ
- ※乳児のいる家庭は、ミルク、紙おむつ、ほ乳びんなども用意しておきましょう。



家族同士の安否確認、決まっていますか？

- ・災害用伝言ダイヤル「171」
局番なしの「171」に電話をかけると伝言を録音でき、自分の電話番号を知っている家族などが伝言を再生できます。
- ・災害用伝言板
携帯電話やPHSからインターネットを使って文字情報を登録し、自分の電話番号を知っている家族などが情報を閲覧できます。

避難場所や避難経路、確認していますか？

災害が発生したときに冷静に避難するためにも、市ホームページや国土交通省ハザードマップポータルサイトなどから防災マップ、ハザードマップを入手し、避難場所、避難経路を事前に確認しておきましょう。



台風に備えた家族と私のタイムライン

地震などの災害は、突然発生するので備えにも限界があります。しかし、台風は天気予報など事前に把握することができます。その利点を活かして、これからの台風シーズンに向けて、どのように準備し対応していくか家族と話し合いましょう。

タイムラインの概要

- 3日前「避難場所・避難路の確認」「家や周囲の点検」
 - 2日前「近所との連絡方法確認」「買い出し、非常用持ち出し品の確認」
 - 1日前「避難に時間がかかる家族の避難開始」
 - 12時間～数時間「家族全員の避難開始」
- ※このタイムラインは、台風接近時の最低限の行動をまとめた対策例です。ご家庭の事情に合わせて活用しましょう。

台風に備えた家族と私のタイムライン ©CeMI

災害発生・台風最接近（0時間）までの時間	行動	祖父母	父	母	子供
3 日前 	気象・台風情報の収集	○	○	○	
	防災マップで避難場所・避難路の確認	○	○	○	○
	家や周りの点検	○	○		
2 日前 	気象・台風情報の収集	○	○	○	
	隣近所との連絡方法などの確認	○		○	
	買い出し、非常持出し品の確認	○		○	○
	ベランダの片付け、雨樋や側溝の点検	○	○		
1 日前 	河川水位情報・気象情報の収集	○	○	○	
	会社休業・学校休校の調整・確認		○	○	
	交通機関等の運行情報の確認		○	○	
	屋外にある物の飛散防止	○	○		
12時間～数時間前 	より安全な場所への早期避難	○	○	○	○
	気象・河川情報、避難情報の収集	○	○	○	
	マイカーの退避		○		
0 時間	安全な場所へ避難開始		○	○	○
	避難（安全な場所）の完了、外出抑制	○	○	○	○

※ 祖父母と息子夫婦は別居暮らし。祖母が車椅子を使用しているため、早期避難を要する場合

家庭での台風対策のポイント

- ・普段から「いつ」「誰が」「何をするか」を家族で話し合っておきましょう。
- ・台風接近時は、話し合っておいた行動を、状況に応じて適切に行うよう心掛けましょう。
- ・状況を適切に判断するために、台風情報や気象、河川、避難勧告などの情報に注意しましょう。
- ・テレビ、防災無線、ホームページなど情報の収集手段を確認しておきましょう。
- ・避難に時間がかかる場合には、早めの避難を心掛けましょう。

■問い合わせ■ 消防本部 ☎54-0119